

巻頭言

家計調査から浮かび上がる生活格差

前年同月比2%以上の消費者物価の上昇が3年4ヵ月も続いており、実質賃金上昇率も7月こそプラスに転じたが、1～6月はマイナスだった。こうしたこともあって、GDPの過半を占める実質個人消費は5四半期連続で前期を上回っているものの、直近時点でも前年同期の水準を1.1%上回るに過ぎない。実額を見ても、コロナ禍前（2019年暦年）の水準を依然として下回る。一方名目ベースでは、19年の水準を大幅に上回っている。

それでは、物価高が本格化する前と足元の消費水準はどう変化したのか。家計調査の四半期データを手掛かりにチェックしてみたい。まず、勤労者世帯の1ヵ月当たり消費支出（名目ベースの平均値）を見ると、25年4～6月期（28.6万円）は19年4～6月期（27.9万円）よりも約7千円（約2.6%）増加した（表）。消費支出は、コロナ禍により20年4～6月期に24.6万円まで減少したが、足元で19年の水準を上回った。ただ、その内訳を見るとインフレの影響が大きく、食料費（外食を除く）の増加額が約8千円と全体の増加額を上回るほか、住居費や光熱・水道費の増加が全体を押し上げている。一方、被服・履物、教育、外食などの支出が減少している。食品価格や光熱・水道費の負担増を、外食や衣料費を抑えて吸収しようという動きだ。教養娯楽費も19年とほぼ同水準で、月次データを参考にしてその内訳を見ると、増加しているのはペット関係の支出やゲーム機などに限られ、レジャー関係支出は、総じて19年の水準を下回る。

次に、世帯収入で世帯を10分類し、最も低い層（階級1＝25年4～6月期の平均年収：198万円）と最も高い層（階級10＝同：1,487万円）を比較してみよう。生活水準を示す代表的な指標であるエンゲル係数（食料費÷消費支出）は階級1で27.6%と、階級10（22.9%）と歴然とした差はないが、生活必需コスト（外食を除く食料費、家賃地代、光熱・水道費の合計）を抽出して、消費支出に占める割合を比較すると、45.2%と24.3%と極めて大きな差があることが分かる。しかも、階級1の生活必需コスト比率は19年4～6月期（39.7%）よりも5.5%ポイントも上昇しているが、階級10については1.7%ポイントの上昇に過ぎない。これ

は、食料品価格や光熱費の上昇が低所得者層を直撃し、生活必需品以外の支出をコントロールする余地が従来にないほど狭まっていることを物語る。ここまで低所得者層の生活必需品への支払いが増えれば、食費に十分なお金を回せず、食事を削る世帯さえ増えかねない。

注目すべきは、教育支出の格差の存在だ。教育費に制服代、定期券代、文房具代などを加えた教育関係費を見ると、階級1は1ヵ月当たり3千円程度（消費支出の2.3%）と、階級10（同14.2%）の20分の1以下である（表）。この格差はもともと大きかったが、改めて目の当たりにすると、様々な補助があることを考慮しても、極めて大きいと実感せざるを得ない。そして、現在のような状況が続けば、低所得者層はますます教育費などの捻出が難しくなることは必至だ。

厚生労働省の調査（22年）では、相対的貧困率は約15%だったが、昨今の生活必需品価格の上昇により、相対的貧困状態に陥る人々が増加していることは容易に推測できる。こうした層が教育などに十分なお金を回せなくなる事態を防ぐことは急務である。一方、高所得者層には消費支出を柔軟に調整できるだけの余裕があるため、新政権は野党と協力して、全国民を対象にした給付金のような政策ではなく、広がる格差の是正に資する具体策を早急に取りまとめてほしい。■

表：1ヵ月当たりの消費支出の変化

（単位：万円、%）

	平均			年間収入十分位の階級1			年間収入十分位の階級10		
	2019年 4～6月期	20年 4～6月期	25年 4～6月期	2019年 4～6月期	20年 4～6月期	25年 4～6月期	2019年 4～6月期	20年 4～6月期	25年 4～6月期
消費支出	27.9	24.6	28.6	14.1	13.3	15.5	48.0	40.8	51.0
食料（外食を除く）	5.0	5.5	5.8	2.9	3.1	3.5	7.1	8.3	8.5
外食	1.7	0.8	1.6	0.7	0.4	0.8	2.7	1.3	3.2
住居	2.1	1.9	2.3	2.0	2.0	2.5	2.1	2.2	2.8
家賃地代	1.4	1.4	1.6	1.5	1.9	2.1	1.3	1.3	1.4
光熱・水道	1.8	1.8	1.9	1.2	1.2	1.4	2.4	2.3	2.5
交通・通信	4.5	3.9	4.5	2.0	1.7	1.8	8.0	6.5	9.7
教養・娯楽	2.8	2.1	2.8	1.4	1.1	1.4	5.3	3.6	5.1
被服・履物	1.1	0.7	1.0	0.6	0.3	0.6	2.1	1.5	1.9
教育	1.6	1.3	1.4	0.1	0.1	0.2	4.1	3.8	4.9
その他	7.3	6.6	7.2	3.2	3.4	3.3	14.1	11.3	12.4
教育関係費	2.5	1.9	2.2	0.2	0.2	0.3	7.1	5.4	7.2
エンゲル係数 （＝食料÷消費支出）	23.8	25.7	25.9	25.5	26.0	27.6	20.5	23.5	22.9
生活必需コスト ÷消費支出	29.5	35.7	32.5	39.7	46.4	45.2	22.6	29.2	24.3

（注）生活必需コストは食料費（外食を除く）+家賃地代+光熱・水道費。

（出所）総務省「家計調査」